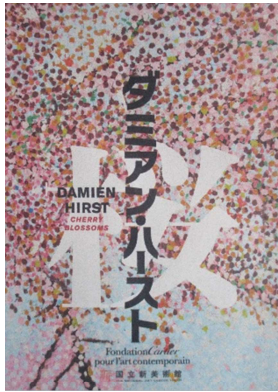


「ダミアン・ハースト桜」展

国立新美術館（六本木） 2022.03.02～05.23



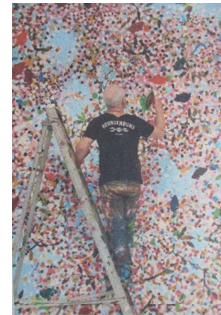
「ダミアン・ハースト」(1965～)は、30年以上に亘り、絵画、彫刻、インスタレーションなどの手法を用いて、芸術、宗教、科学、生や死といったテーマを深く考察してきたイギリスを代表する現代作家である。

本展は、107点の「桜のシリーズ」から「24点」の作品を厳選し、19世紀のポスト印象派や20世紀のアクション・ペインティングといった西洋絵画史の成果を独自に解釈している。展示作品は、色彩豊かな風景画を完成させ、彼が“桜のシリーズは美と死についての作品”であると

し、大きな作品は縦5m・横7mもあるダイナミックな展示品もあり、画面からは儚くも鮮やかに咲き誇る桜並木の下に身を置いたときのように、実に幻想的な世界に誘ってくれる。



スタジオで 2019年



2020年



ダミアン・ハーストのスタジオ風景

〈ダミアン・ハーストのことば〉

For the love of God, what are you going to do next?

この言葉は、ハーストの母親が彼に向かっていった言葉で、“For the love of God”「神の愛のために」もしくは「お願いだから」という意味で、彼は作品のタイトルにしている。

